

令和7年11月 5日

松阪市議会議長
濱口 高志 様

海住恒幸

研修参加報告書

研修会	議員力研究会
期日	令和7年11月1日(土) 13時～17時
会場	新明コミュニティセンター(最寄り駅:名古屋駅)
参加者	愛知、岐阜、三重、奈良の各県の市議会議員10人

研究会は、岐阜県多治見市の幹部職員として、市長マニフェスト・サイクルの総合計画の策定にかかわるなどユニークな市政を実務者サイドから支えた青山崇氏(自治体学会会員、東海自治体学会役員)を常任のアドバイザーに迎え、年度に4～5回、名古屋駅から徒歩で歩いて行ける会場で開催している。



1. 事例報告

① 瀬戸市(愛知県)議会議員(臼井淳氏)

「委員会における継続審査の動議について」

今年3月に開かれた全員協議会で市公共施設の廃止(9月)を説明。そのまま、3月定例会で廃止に伴う当該施設の管理費を減額した当初予算案と、施設設置条例の廃止案が出てきた「唐突」感からの議会对応。議会の大勢は「当初予算は傷つけ(修正)たくない」という雰囲気の中、条例案のみ閉会中の継続審査とする矛盾するような対応となった。

【所感】

条例案には閉会中の継続審査とすることに賛成した議員が、当初予算案にも賛成したことになる。どう対応すべきだったか。当初予算に修正案を出すべきだったが、それができないなら付帯決議を付けることが必要だったのではないかな。閉会中の継続審査をすることとした常任委員会は3月定例会以降、2回の審査を行ったが、執行部側からは5月に臨時会を開いて結果を出してほしいとの要望があり、そのような取り計らいとなった。しかし、形式論からすれば、定例会で閉会中の継続審査となった案件は次の定例会までとの継続とするのが運用上の通説。当初、執行部の説明が遅すぎるなど執行部の対応がそもそも不適切だった。そんな執行部のデタラメな姿勢には、議案に対する賛否を超え、議会としては抗議すべきだったろう。この事例を悪事例として議会として検証していくことが求められるのではないだろうか。

② 松阪市(三重県)議会議員(海住恒幸)

「一般質問の失敗事例について」

令和7年9月定例会で行った一般質問(全部で4項目)のうちの一つ「松阪公園プールの廃止は、いつ、どんな場で決まったのか?」について報告した。

この質問は、「廃止」という決定について問題視するのではなく、市民が廃止を知るのは決まった後で、決まる前に説明を受け、市民が意見を言う機会を設けない「お知らせ行政」ではいけないことを問うたものである。

【所感】

市民起点の政策決定を排除した行政意思を第一義とする現在の市長に多くを望むものではないが、決定前に市民が意見を言える市民自治の実現について、せめて職員は多少なりとも思いを馳せることを望んでのことではあった。しかし、職員も職員で、就任10年になる市長のゴキゲンをそこねたくない配慮が心底身についてしまったようで、市長に気に入ってもらえる答弁しかない。

しかも、こちらは、質問の趣旨どころか、せめて、議員の伝えたい気持ちぐらいわかってほしいと、質問の原稿全文を渡してあるのに、逆手に取ったような答弁しかない態度には心底腹が立った。

11月議会でもう一度同じテーマを取り上げたいと思っている。

③ 生駒市(奈良県)議会議員(塩見牧子氏)

「債務負担行為の設定について」

近鉄駅のバリアフリー化工事(エレベータ設置)についての市負担分として債務負担行為を設定する際、限度額と期限を設けず、議会提案をしてきた。近鉄側との交渉に敗れてのことだった。塩見議員は修正案を提出したが否決された。

【所感】

あり得ないことと驚いた。生駒市は近鉄沿線に人口が増えた市。大阪への通勤圏内である。マンション、宅地開発も近鉄系が目白押し。自治体と近鉄との関係性も気に掛かるところらしい。どこを向いた自治体なのか。

2. 意見交換会

岐阜県美濃市長選挙の「事件」について

(省略)

全体を振り返って

毎回持ち回りで報告者を決めて事例報告をしているが、今回は私もその一人となった。それにあたると、開催の2週間前にはテーマ整理表という所定の書式にテーマと、それを議論したい理由、反省点を記入の上、議事録や資料も揃えて事前提出する。逆に他の2人の資料も事前に読み込み、論点を整理しておくことになる。私について言えば、9月議会に取り上げたテーマを11月議会にもう一度取り上げようかを迷っている時期でもあり、実に良いタイミングとなった。

以上